

函館空港遺跡発掘資料

中野A遺跡の土器

函館空港第2次整備計画によって函館市教育委員会が調査した遺跡3カ所で、その内の1カ所中野A遺跡からは、6軒から7軒単位の住居址群が発見された。

発掘資料で古い年代のものは、8千年から1万年前（ ^{14}C 年代測定値）に相当するが、出土品の総点数は約72万点にものぼる。写真の2点はその主なもので、底の尖っている土器は、土壌に埋設されていたもので全面にアカガイなどのアナダラ属の貝殻で文様が付けられている。口縁部の小さな山形突起を中心に構図が展開され、点と線でまとめられている。高さが30cmの大きさの土器である。深鉢の土器は、貝殻文の土器より年代が新しいが、住居址の床面から出土したもので、この形式で完形品に近いものはこれまでになかった。函館市の梁川町遺跡出土の土器を標式にした梁川町式土器とも呼ばれる。文様は器面に重波状の細隆線文と燃糸を押圧した文様構成で、紐状の細い粘土を貼付してから燃糸を押圧している。大きさは比較的小形で高さが14cmである。



市立函館博物館沿革史 (その9)

〈開拓使函館支庁仮博物館〉 (2)

前回この建物は明治11年7月に、わが国地方最初の博物館として32坪の陳列室だけが完成したことを述べた。今回はこの建物が正式に博物館として開館した明治12年5月までの準備期間における関連記事を前回同様函館新聞を基に紹介する。

(5) 明治11年7月14日付、第42号

昨日ブラキストンの雇人が港内で、世にマンボウ鮫といふに似た一種変わった魚を取上げたゆえ、さる人が夫をブラキストンより譲り受けられ、博物館へ出品すると昨日わざわざ弊社へも見せられました。

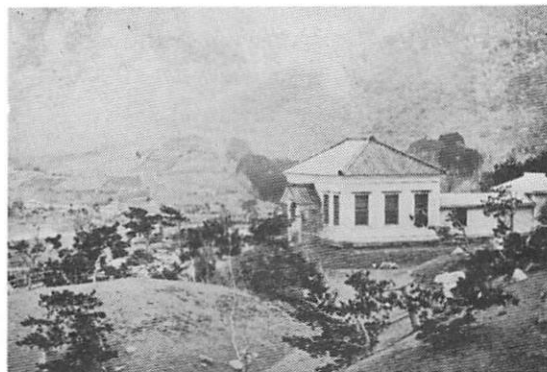
この記事は開館前の博物館に一般市民の間に資料を寄贈する気運の起こりつつあったことを示している。

(6) 明治11年7月18日付、第44号

動物見本採集並に学術研究のため、東京大学理学部教授米国博士モース、同大学理学部教授並に教育博物館長矢田部良吉の両氏当港へ着され、当分仲浜町船改所の中へ一局を設け、海中より種々の動物を取集め顕微鏡等を以て試験して居るよし、終れば後志・胆振の両国を巡回し石狩札幌へも向われ、往復の日数は凡そ50日の見込。

このモースは明治10年、東京大学理学部の動物学の教授として来日、その年大森貝塚(東京都大森区・現在大田区)を発見し自ら発掘調査の上、その結果を大学の紀要に発表、わが国考古学の創始者である。矢田部良吉は明治9年、わが国最初の植物学講座を東京大学理学部に開いた植物学者で、彼が兼務していた教育博物館は現在東京、上野公園にある国立科学博物館の前身である。彼らは約1か月

北海道に滞在したが、その中奥地の旅行日を除き20日間は函館で調査生活を過ごした。当時北海道には外国人用のホテルはなく、函館には米国領事館は存在したが、領事ハリスの妻が弱く、子供が多いので止むを得ずモース1人がデ



ンマーク領事館を宿とし独身のデュヌス領事と共に夕飯には、ビール、ビフテキ、バター付のパン等で満足した生活をした。モースは採集した資料の内貝類70余点、矢田部は植物標本190余種を仮博物館に寄贈して8月17日東京に帰った。

(7) 明治11年8月6日付、第53号

今度支庁の官員井深基君が御用にて千島諸島を巡回するに付、当港にて有名な写真師田本研造氏の高弟なる井田幸吉氏が自費で随行を願い千島諸島を残らず写影するとの由にて、一昨日出帆の玄武丸にて一同出立されしよし。

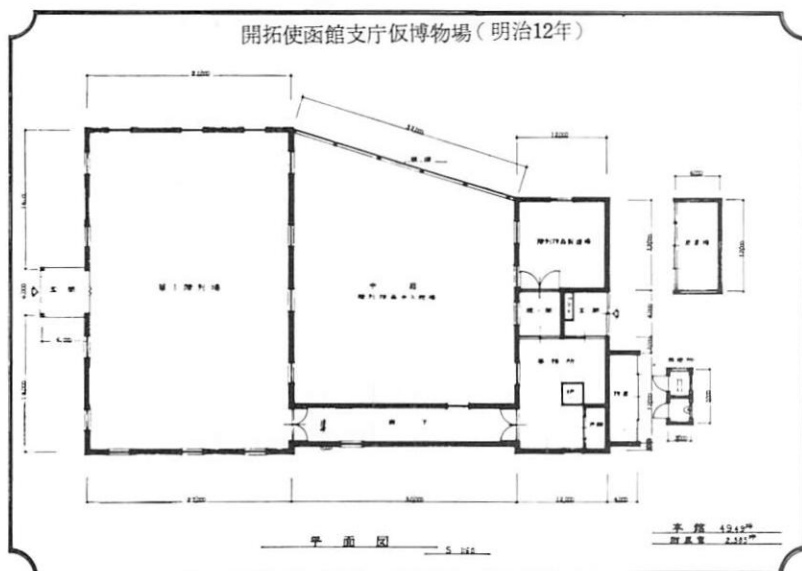
この記事は一見仮博物館と無関係のように思われるが、この一行の内に、地震学者として、また函館の堀川乗経の娘トネと国際結婚をし、在日20年、東京大学の名誉教授となり、日本政府より年額1,000円の恩給を支給され帰国したジョン・ミルンが同行した。

鳥類学者ブラキストン、動物学者モース、地震学者ミルン、それに前年函館に来ていた宗教家パチラー等と仮博物館の関係については次回にゆずる。

(8) 明治11年11月26日付、第107号

鹿児島士族二木彦七、当庁御用掛拝名、同氏は数年プロシヤに留学し大学校の試験もとり、榎本公使に随って帰られた人である。

この記事の二木彦七は明治3年開拓使よりアメリカ留学を命ぜられ、その後ドイツ、ロシア等欧州各地を巡り、当然各国の博物館施設を見学し



て帰国したと考えられる。開拓使の廃止後も函館県に勤め、明治17年函館県が第2博物場(民族館)を新設した際、県の勸業課長(博物場はこの課の所管)をした人である。

以上の記事に関連した人々の間、また役所の関係者の間で、役所より離れた函館公園内で32坪の陳列室だけでの開館は無理であることは理解したが、予算の関係上翌明治12年に増築整備の上開館した。

今回使用した写真は増築後のものであり、その平面図は明治23年作製のものであるが写真製版のため、前市役所建築課長高見重吉氏が新しく製図したものである。

なお開拓使事業報告土木篇に、明治12年函館支庁新築工事、仮博物場監守人居所継足、9坪55、起工3月、竣工4月経費265円45銭とある。

〈学芸係長 姫野英夫〉

最近受入れた資料

故久慈次郎氏の葬儀の状況(写真)	1枚
ペブルース来道函館市民球場での試合風景	1枚
記念写真	1枚
【白石田文男氏寄贈・森町公民館】	
褒賞(明治9年)卒業證書(明治12年)	
借用金證書(明治15年)各1枚	計3枚
【近江幸雄氏寄贈・函館市白鳥町16-21】	
屏風止メ用具(黒塗)	
竹型	2個
扇子型	5個
【田中誠一郎氏寄贈・函館市湯川町2-8-8】	
イーストマンヴェストカメラ	1台
【加藤東治氏寄贈・函館市谷地頭町13-4】	
油絵(旧函館検疫所事務所所見)	1点
【鶴田信次郎氏寄贈・函館市宝来町24-12】	
複製石版刷(大正天皇筆1、乃木希典2)	計3幅
【住吉キノ氏寄贈・函館市堀川町17-7】	
髷(かもし)(日本髪に使用する)	5本
【伊藤花世氏寄贈・函館市船見町19-20】	
勲功旗章(銀製)1、他1	計2個
【沼口ニ氏寄贈・函館市本町11-9】	
矢じり(アメリカインディアン使用)	5本
【白鳥広氏寄贈・函館市亀田町17-5】	
恵山土器	1点
【大浅勲氏寄贈・函館市梁川町11-20】	
銚子(祝儀用)2個、他4個	計6個
【住吉キノ氏寄贈・函館市堀川町17-7】	
蒸気機関車前照灯1個、他5点	計6点
【山村豊氏寄贈・函館市本町6-14】	
盃3枚(桐紋入、鶴模様、亀模様)	3枚
【竹田ヤエ氏寄贈・函館市船見町6-26】	
荷車の車輪	2輪
【小野乾太郎氏寄贈・函館市弁天町2-11】	
錦絵	1枚
【国領栄一氏寄贈・函館市中島町35-7】	
北海道詳図(明治44年7月発行)	1幅
函館市街番地明細全図	1幅
【大町町会殿寄贈・函館市大町1-1】	
鬼瓦 2個、他1個	計3個
【宗原幸一氏寄贈・函館市宝来町34-4】	
絵はがき(大正一昭和アルバム付)200枚、他1点	計201点
【樋口チセ氏寄贈・函館市船見町11-5】	
物入れ(千島アイヌ製作テンギ草製)	1点
【若林タマ氏寄贈・函館市住吉町12-17】	

池田和男新館長就任

昭和52年10月31日、石川政治氏の跡を継いで、4代目の博物館長となった。

新館長は、昭和23年函館市に入り、その後税務部、商工部、市民部、厚生部の仕事に携わり、今回教育委員会に勤務することになった。



今までの経験を活して、百年の歴史ある博物館が、より一層市民に親しまれ、役立つものになるよう、特に展示は市民が直接目に触れる大事な業務なので、できる限り改善し、気軽に何度でも市民が博物館を観覧できるようにしたいという抱負を持っている。

昭和4年函館生まれ。

〈編〉

一刀流奥伝(写)	1巻
由来書	1通
【吉川梅雄氏寄贈・函館市松川町47-13】	
懐中時計(旧国鉄使用)	1個
【山村豊氏寄贈・函館市本町6-14】	
蓑(みの) 炬燵(ろかぎ) 草鞋(わらじ)	3点
【三浦要之助氏寄贈・函館市富岡町38】	
燗鍋(鉄製)	1本
【美濃谷禮氏寄贈・函館市弥生町8-21】	
管打式火縄銃	1挺
【三品稔氏寄贈・七飯町字本町470】	
燗鍋(真中製、鉄製)	2本
【上條ムラ氏寄贈・函館市船見町10-5】	
鉄瓶(南部照光堂製)、燗金(鉄製)	2点
【吉川静枝氏寄贈・函館市元町3-13】	
薬籠(木彫時絵)	1個
【加藤東治氏寄贈・函館市谷地頭町13-4】	
洋皿(直径20.7cm)	6枚
【柳川キセ氏寄贈・函館市弥生町2-18】	
衡立	1個
明治の遺愛女学校外人教師使用の箱	1箱
黒塗「御真影」の箱	1箱
彫飾りの置物台	1台
【小畑信愛氏寄贈・函館市花園町4-22】	
柱時計(明治時代使用)	1個
【中内美江氏寄贈・函館市弥生町23-11】	
丸まげ前櫛(龍甲)1枚、他8点	計9点
【川上晋氏寄贈・函館市元町29-22】	
肖像写真(初代渡辺熊四郎)	1枚
〃(〃カッ)	1枚
【渡辺定範氏寄贈・函館市湯川町2-3-22】	
秤(明治時代、函館製)	1台
【汐谷光枝氏寄贈・函館市谷地頭町4-6】	
村田銃(明治18年代)	1挺
【菊地哲磨氏寄贈・函館市東畑町136-6】	
皿手動はかり	1台
【樋口チセ氏寄贈・函館市船見町11-5】	
明治時代の写真(田本研造製)	2枚
【平野正二氏寄贈・函館市谷地頭町36-4】	

博物館日誌抄 (52.1.1~52.12.31)

- 52.1.4 御用始め
- 52.2.12 市民講座(植物研究会)
中部高教頭、恵山中教師、アラスカ大学教授、
北大助教授来館
- 22 亀田教育事務所主催茶会25名
- 52.3.9 NHK取材のため来館
- 12 電通取材のため来館
- 19 市民講座(植物研究会)
- 20 青年センター主催茶会
- 52.4.16 特別展準備のため休館30日まで
- 23 市民講座講師(植物研究会)
- 52.5.1 第3回日本海文化展開催(～6月30日まで)
- 11 道博協役員会
- 31 道博協芸芸部の件で苫小牧青少年センター学
芸員佐藤一夫氏、小樽市博物館学芸員土屋周三
氏来館
- 52.6.3 博物館協議会開催
- 7 筑摩書房写真撮影のため来館
北海道博物館大会(於十勝清水町) 石川館長他
出席
- 11 市民講座(聖山遺跡の発掘について)
講師吉崎昌一氏
- 16 市民講座(植物研究会)
講師乳井幸教氏、宗像英雄氏
- 52.7.16 科学教室(天体)講師津川軍次郎氏
市民講座(植物研究会)
講師宗像和彦氏、乳井幸教氏
- 17 市民講座(民俗)講師姫野学芸係長
- 22 国博学芸部長増田キートン氏来館
- 27 磯の生物観察会(木古内町)
講師中野末司他
- 52.8.16 伊勢市児童会父兄等31名来館
- 20 京都国立博物館井上氏資料借受に来館
- 52.9.27 大蔵省関税局山元氏函館税関相馬氏来館
- 52.10.27 バングラデシュ高官来館
- 52.11.1 新館長池田和男発令 10/31付
- 16 南空知町村教育長他8名来館
- 52.12.1 京都国立博物館井上氏資料返納に来館
- 28 御用納め

入館者統計

昭和52年度平常展示(52.4.1~52.12.31)

月別	区分	本館			分館			資料館			総計
		個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	
4	大人	282	0	282	1,806	238	2,044	270	0	270	2,596
	小人	348	0	348	463	71	534	211	0	211	1,095
	計	630	0	630	2,269	309	2,578	481	0	481	3,689
5	大人				6,051	713	6,764	466	51	517	7,281
	小人				2,241	4,488	6,727	146	249	395	7,122
	計				8,292	5,199	13,491	612	300	912	14,403
6	大人				6,128	3,040	9,168	649	44	693	9,861
	小人				2,043	4,088	6,131	144	155	299	6,430
	計				8,171	7,128	15,299	793	199	992	16,291
7	大人	500	33	533	7,467	3,832	11,299	570	25	595	12,427
	小人	419	50	469	1,977	1,025	3,002	466	121	587	4,058
	計	919	83	1,002	9,444	4,857	14,301	1,036	146	1,182	16,485
8	大人	1,790	6	1,796	14,606	1,450	16,056	1,162	41	1,203	19,055
	小人	1,336	19	1,355	4,551	489	5,040	1,212	83	1,295	7,690
	計	3,126	25	3,151	19,157	1,939	21,096	2,374	124	2,498	26,745
9	大人	803	18	821	6,092	2,490	8,582	608	22	630	10,033
	小人	462	383	845	1,172	1,348	2,520	300	0	300	3,665
	計	1,265	401	1,666	7,264	3,838	11,102	908	22	930	13,698
10	大人	229	0	229	1,411	656	2,067	174	1	175	2,471
	小人	201	24	225	251	0	251	61	19	80	556
	計	430	24	454	1,662	656	2,318	235	20	255	3,027
11	大人	306	0	306	1,267	134	1,401	356	0	356	2,063
	小人	304	28	332	98	0	98	103	0	103	532
	計	610	28	638	1,365	134	1,499	459	0	459	2,595
12	大人	178	0	178	568	11	579	176	0	176	933
	小人	249	0	249	53	0	53	58	0	58	361
	計	427	0	427	621	11	632	235	0	235	1,294
累計		7,407	561	7,968	58,245	24,071	82,316	7,133	811	7,944	98,228

昭和52年度特別展(本館) 5/1~6/30

	個人	団体	計
大人	3,967	577	4,544
小人	664	19,018	19,682
計	4,631	19,595	24,226

— あとがき —

※昭和40年5月発行された市立函館博物館館報「サラニッ
プ」も通巻16号となりました。月日の経つのは早いもので
す。

本誌の第1頁に毎月掲載してきました函館博物館収蔵資
料の紹介シリーズも「アイヌ風俗12ヵ月屏風」(岡田)、
「アイヌの喫煙用具」(姫野)、「箱館戦争資料」(西田)
と続けてきたが、今号は博物館保管の「函館空港遺跡
発掘資料」(千代)の解説を掲載しました。

※昭和54年は開拓使の博物館として開館して100年に当り
ます。博物館にとって一世紀という大きな区切りの中で、
今後共市民の社会教育の場として役立つよう努力します。

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ No.16 1978.3.1 発行

編集・発行 市立函館博物館 (TEL0138-23-5480)

北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)